



鎮守の森だより

NPO 法人 社叢学会ニュース

第 12 号

2004年11月11日

平成 17 年度総会は名古屋で開催

～ 2005 年 6 月 4 日 ～

18 年度総会は九州での開催を予定

平成 17 年度の総会並びに研究大会は、平成 17 年 6 月 4 日、名古屋市で開催することが決定しました。平成 16 年度の第 3 回総会に続いて名古屋開催になりますが、会場については未定です。

来る 2005 年は、今世紀最初の国際博覧会が 3 月 25 日より 9 月 25 日まで、愛知県において開催されます。当学会としまして、前号(第 11 号)の「鎮守の森だより」お知らせしましたごとく「森に生きる日本文化」テーマに「千年の森」づくり、「天空鎮守の森」づくり、ハイビジョン映像作品「日本は森の国」(全 6 巻)の制作・上映、国際シンポジウムの開催などで、出展参加することが決定しており、着々と作業が進行しております。

平成 17 年度の総会日を 6 月 4 日としましたのも、愛知博に連動させたためです。

総会当日のスケジュールは、午前中に総会と研究発表会を行い、午後から「森と水といのち」をテーマに学術シンポジウムを開催します。基調講演並びにシンポジウムは、森と水と生命の根源を現代社会にと伝える「鎮守の森」の、特に都市における意義をめぐって、海外の学者を交えた学際的なシンポジウムを開催します。

研究発表につきましては、例年通り会員の皆さんからの応募をお待ちしています。

平成18年度の九州での総会の開催場所につきましては、検討中です。

なお、今年度の総会で再任・新任された役員は下記の通りです。

理事長	上田正昭	理事	坂本新太郎
副理事長	上田篤	〃	土屋敦夫
〃	進士五十八	〃	服部保
〃	菅沼孝之	〃	花堂靖仁
〃	園田稔	〃	濱野周泰
〃	林進	〃	藤井勝美
理事	飯田清春	〃	茂木茂
〃	糸谷正俊	〃	森本幸裕
〃	井上満郎	〃	山倉拓夫
〃	植木行宣	〃	米山俊直
〃	岡村穰	〃	渡辺仁
〃	奥富清	監事	佐々木高明
〃	片岡智子	〃	南幸治
〃	上甫木昭春	〃	和田萃

武士と神社

講師 元木泰雄(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

コメンター 野口 実(京都女子大学宗教・文化研究所教授)

はじめに 武士といっても、江戸時代の武士と合戦をしている時代の武士とは全く考え方が違う。江戸時代の文献に「武士は正直でなければならない」と記されている。これは、いざ騙まし討ちにしようとする際に、日頃から嘘をついていると効果がないからだ。武士は合戦で勝つことが一番で、手段を選ばなかった。こうした中世的な武士と古代的な神社とは、水と油のごとく相容れないものではないかという発想もある。

しかし、鎌倉幕府の法典『御成敗式目』の第1条には、「神社を修理し、祭祀を専らにすべき事」と記し、「神は人の敬いによって威を増し、人は神の徳により運を添える。然らば則ち恒例の祭祀を衰えさすことなく、神前に捧げる供物を怠慢せしむるなかれ。これによって関東御分の国々ならびに荘園においては、地頭・神主らが各々その趣を存じ、精誠を致すべきなり。」と命令している。このように武家政権も神事を先とする治世を旨とした。

武士の成立 武士とは弓矢をもって騎射戦闘をし、武芸を家業とする者であるが、さらに所領を有し、そこに主従関係の武士団を形成する。その成立は、平将門と藤原純友が朝廷に反抗して起こした承平天慶の乱(935~941)の頃といわれる。この二つの反乱を鎮めた人物の子孫が、後の有力な武士になる。その人物は将門の乱を鎮めた平貞盛(平清盛を輩出した伊勢平氏の祖)、地方武士として活躍した藤原秀郷(藤原秀衡で有名な奥州藤原氏の祖)、純友の乱平定で功名をあげた源経基(武門源氏の祖)などである。この3者が特に大きな恩賞を受け、その後の武士の中心となる家柄がこの時期に成立する。

将門の乱と神祇 軍記物語『将門記』に、坂東諸国を治めた将門のもとに、八幡大菩薩の使という者が来て、「東国を支配する地位を与える」という件がある。これは、当時の神々は荒ぶる神といわれ、天皇の地位を相対化させるイデオロギー的なものがあった。やがて、朝廷に対抗する神の存在があつてはならないということで、八幡神(石清水八幡)に

は伊勢神宮に次ぐナンバー2の地位を与え、菅原道真も北野天神として祭られるようになった。これらの神は、平安中期の藤原頼道(992~1074)の頃には、二十二社という神社体系に組み入れられる。つまり朝廷で大きな出来事や豊作を祈るなどの重要な儀式の際は、伊勢・石清水・賀茂・松尾・平野・稲荷・春日などの三十二社の神々へ使者を送るという体制ができた。

平安後期における武士と神社 地方の有力な武士の家系をみると、源氏や平氏、奥州の藤原氏など軍事貴族とよばれた子孫や、古代の有力豪族の子孫が武士になっていった。こうした中で、注目すべきは伝統的な神社の神官が武士と結合して、武士化することがある。著名な例として尾張の熱田社、近江の佐々木神社がある。又、下野の宇都宮氏、信濃の諏訪氏、肥後の阿蘇大宮司、備前吉備津實の王藤内、因幡の高庭氏などもその例である。

一方、平安後期においては、武士と神社の対立もしばしば起こる。代表的なのが強訴における対決である。強訴といえば僧兵だが、神官が同行する例も多い。延暦寺はその鎮守社である日吉神社の神官が、興福寺は春日神社の神官が強訴に加わった。又、神社に納めるべき年貢を武士が奪い取ったり、荘園を侵略することもしばしばあった。こうした中で、武士と神社が共同で荘園経営に携わった例も多い。

治承3年(1179)、後白河法皇の院政を停止させ、平氏政権を成立させた平清盛は、国家的な神社政策を次々に行った。代表的なのが厳島神社と宇佐八幡を重視し、両礼の神官を同司としたり、腹心として重用した。特に厳島神社への信仰は厚く、奉納された「平家納経」は著名。

元暦元年(1184)、一ノ谷で平氏を破り、武士政権を樹立した源頼朝は朝廷に対し、政務に関する「四カ条の奏請」を行い、第三条に「諸社事 我が朝は神国なり。往古の神領相違なし。そのほか今度はじめて又おのおの新加せらるべきか。」と神国思想の表明をしている。

次回予告(第13回関西定例研究会)

日時：2004年11月27日(土) 13:30~15:30

場所：伏見稲荷大社儀式殿(京都市伏見区深草藪之内町68 075-641-7331)

テーマ：土着の聖なる空間 沖縄の御嶽～有形・無形の文化遺産～

講師：益田兼房(立命館大学歴史都市防災研究センター教授)

コメンター：益田寛子(早稲田大学大学院社会科学研究所博士課程)

湖北地方の農村景観の普遍性と特殊性

講師 土屋 敦夫 (滋賀県立大学教授)

大縣神社の社叢について

講師 牧野 武彦 (大縣神社宮司)

犬山の巨樹・古木

講師 本山 啓子 (犬山市エコアップリーダー)

コメンター 林 進 (岐阜大学名誉教授)

湖北地方の農村景観の普遍性と特殊性

滋賀県長浜市周辺の農村集落には奇妙な条里制が残っている。姉川以外は全て四角く、北国街道でさえも直角に折れ曲がりを繰り返しながら続く。しかし、それぞれの村落には必ず神社と寺の両方がある。神社は必ず森に囲まれ、一方、寺には大きな木がなく、大きな屋根のみが遠方から見える。大きな寺院にも樹木がない。この地方では浄土真宗が盛んで、人が住み始めて村の寺(道場)ができ、住職が居るようになり、大きな本堂ができるという発展形式が見られる。道場や寺院の建物は切妻屋根が多く、入り口は妻入り形式となっている。一方、神社の森の中には拝殿があるだけで本殿はない。その拝殿も雪除けの袴と床と屋根はあるが、扉も何も無い吹きさらしになっている。

長浜では、10世紀の平安時代中期に、田を条理に区切って平らにしたと言われている。昭和39年の地図には桑畑や田圃が多く、あちこちに村があるが、田畑も村落も条理に従って四角い形をしている。街中を流れる米川という幅2m位の掘割のような川も、条理に従って直角に折れ曲がっており、しょっちゅう洪水を起こす。村落も道が真直ぐで、家並みが揃った街のようになっている。どの村にも神社の森と寺はあるが、自然地形ではない田畑も街路も庭も家並みも整然とした不思議な農村風景が維持されている。

大縣神社の社叢

尾張二ノ宮の大縣神社は尾張本宮山(真霊山)をご神体としているが、山頂の二千坪のみが神社の土地となっている。本宮山は尾張地方からご来光を拝む位置にある。江戸期には33の社家があり、尾張徳川家から社領安堵を受けていたが、明治になって社領がなくなり2-3名の神主が残った。社務所から

手を伸ばせばマツタケが採れる時期もあったが、伊勢湾台風とマツクイの大きな被害を受けた。本宮山の手前の山は碎石が盛んで禿山になっている。名神高速道路から見えるために「何をやっているのだ」とお叱りを受けることがある。社叢周辺の自然保護について考える必要がある。

犬山の巨樹・古木

犬山市は人口7万4千人の静かな街で、市域の半分が森林で、木曽川国定公園や東大などの演習林として守られている。2004年の市政50周年にちなんで50本の巨樹・古木を調査して、冊子「犬山の巨樹・古木50選」にまとめた。平成10年から犬山市では市民が地域の自然を守るという視点で、年10回の講座を開催してエコアップリーダーを養成している。182名の修了生がおり、現在は7期生が受講中である。ボランティアによる自発的な活動として、幹周り3m以上の樹木129本を調査・撮影し、マップ化して、表示板の設置やパンフレットの発行を行った。平成17年5月12-13日の愛知万博の「犬山の日」に、成果を展示する予定である。

犬山市の巨樹・古木は、市街地が集中する犬山地区の木曽川沿いに集中しており、樹種はクスノキ>シイノキ>エノキ>イチョウ>ムクノキの順で、全体の64%が神社とお寺で守られていることが分かった。また、経済的な理由があるかもしれないが、神社よりお寺の方が巨樹・古木の保存状態が良い。しかし最近、冊子に掲載した樹木でも、交通の障害になるとの理由で無残に枝が落とされたり、枯死するなどの被害が相次いでいる。巨樹・古木への畏敬の念の衰退や公共工事の犠牲・住民のクレーム・保存体制の不備・業者の無知などの理由が挙げられるが、貴重な樹木の損失を防ぐ必要がある。

次回予告(第13回関東定例研究会)

日時：2004年12月11日(土) 14:00~17:00

場所：國學院大学・渋谷キャンパス 120周年記念1号館 1103教室(渋谷区東4-10-28)

テーマ：「ふるさとの森」創生 ~NGOによる海外緑化事業~

講師：鈴木 宏紀 (財団法人オイスカ 地域第一部)

コメンター：園田 稔 (社叢学会副理事長)

bookbookbookbookbookbookbookbookbookbookbook

書籍紹介

bookbookbookbookbookbookbookbookbookbookbook

『探究「鎮守の森」～社叢学への招待～』

鎮守の森は神と人とがまつりを媒介として集い合う寄合の場であった。しかし、バブル経済のなかの土木開発あるいは都市開発による団地の造成や道路の拡幅、農山漁村の過疎化による氏子の減少など、鎮守の森をめぐる状況は都市はもとより農山村の地域においても厳しい状況にある。しばしば「森の文明」が強調されるが、森そのままでは文明にならない。鎮守の森の原像をみきわめ、「社叢」を改めて再認識することが、日本の文明すばらしさを再評価することにつながる。

本書はこうした鎮守の森の問題を歴史学・民俗学・植物学・文化人類学・都市計画学の視点から斯界の研究者が解明している。さらに「付編」として社叢学会が過去2回に行ったシンポジウムと基調講演を収録している。

平凡社・定価2,400円(税別)

『週刊 日本の樹木』(全30巻)

平成16年3月から毎週刊行をはじめた樹木百科『日本の樹木』が完結。各巻ごとにテーマの葉を原寸大で掲載し、樹形のシルエットとともに樹木を見分けるポイントをビジュアルに解説し、それらの樹林で咲く草花もカラー写真で紹介している。全巻で約160種の樹木を収録し、それぞれの樹木を使用した工芸品やそれに関連した博物館なども紹介されている。又、各巻ごとに「森語り人語り」と題して、山や森に憧憬の深い、例えば高田宏・畠山重篤・湯浅浩史・立松和平など10名のエッセイストや作家のリレー随想を収録している。

学習研究社・定価各巻560円(税込)

事務局から

天変地異の恐ろしさをまざまざと見せ付けられ、現在もなおそれが続いている状態ですが、会員の皆様お変わりございませんか。被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

書籍紹介欄でも取上げました『探求 鎮守の森』は、当学会が一昨年より「入らずの森研究会」を発足させ、計4回の研究会で発表・討論したものをまとめたものです。基本的には鎮守の森の奥には聖なる禁足地があり、その聖域を犯せば祟りがある。その祟りとは？ 禁伐採の伝承などにも論究されています。これまでの鎮守の森関係の書籍とはひと味ちがった内容です。

トップページでも記させていただきましたが、平成17年度総会における研究発表者を募集しております。発表希望者は発表内容を約400字にまとめて、平成17年2月末日までに事務局(京都)へご送付下さい。

編集後記

毎朝(といってもちょっと遅め...) 錦市場のアーケードを通過して通勤。今の季節はなんと言っても松茸ですよ、松茸! 最近、中国はもとより、カナダやトルコ、モロッコ産なんてのもあり、それぞれびみょーに形状が違う。てな中でなんといってもいっちゃんがかい顔をしているのが丹波のマツタケ。竹の籠にヒノキだかなんだかの小枝を引き連れて鎮座まします。「3,500円かあ。高いなあ」と思って通り過ぎ、「ん?」。戻って0の数を確認。うおっ! 「3万5千円じゃん。ひえ~」

でも、秋の味覚は松茸だけじゃないもん! 1尾100円の秋刀魚だってあつつあつを大根おろしで食べるとめっちゃうくちやおいしいもん! 鰯だって脂がのってくるし。でも、やっぱり一回ぐらいはマツタケ食べたいなあ~。(食欲全開・藤岡 郁)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区蛸薬師通堺町通西入雁金町 373 番地
みよいビル 303号 TEL075-212-2973 FAX075-212-2916
http://www2.odn.ne.jp/shasou/ E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
社叢学会関東支部 〒171-0021 豊島区西池袋 2-36-1 ソフトタウン池袋 1101
TEL03-5950-6507 FAX03-5950-5184 E-Mail shasou@macrovision.co.jp